



包装規格  
1ℓ×3本入

®：(株)理研グリーン登録商標

適用雑草と使用方法

(平成24年12月1日現在)

作物名	使用目的	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ベンジルアミノプリンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
西洋芝 (ベントグラス)	スズメノカタビラの出穂抑制	春夏期 スズメノカタビラ出穂前～	0.6～1.2 mℓ/m <sup>2</sup>	100～200 mℓ/m <sup>2</sup>	3回	雑草茎葉散布  エテホン21.5%液剤を1m <sup>2</sup> あたり1.0mℓ加用のうゑ雑草茎葉散布する。	3回
		出穂初期 (芝生育期)	0.3～0.6 mℓ/m <sup>2</sup>				

有効成分と性状

一般名	ベンジルアミノプリン	
有効成分および含有量	6-(N-ベンジルアミノ)プリン	2.0%
その他の成分の種類および含有量	有機溶剤、界面活性剤	98.0%
性状	淡黄色澄明水溶性液体	
荷姿	1ℓ×3本	

人畜・魚毒に対する安全性(原体)

●人畜毒性

普通物(指定なし)		
経口	マウス(♂、♀)	LD <sub>50</sub> 1,300mg/kg
経皮	マウス(♂、♀)	LD <sub>50</sub> >5,000mg/kg

●水産動植物に対する影響

コイ	LC <sub>50</sub> 38.5mg/ℓ (96h)
オオミジンコ	EC <sub>50</sub> 19.6mg/ℓ (48h)
藻類成長阻害試験	ErC <sub>50</sub> 320mg/ℓ (24-72h)

⚠ 使用上の注意事項

- 調整した薬液は放置すると効果が不安定になるため、速やかに使いきってください。
- 気温が25℃以上に推移した場合、芝草の生育が緩慢になる時期、過度なストレス(踏圧や日陰など)での使用は薬害が生じる可能性があるため、使用は控えてください。
- 本剤を連続して使用する場合、散布間隔は3～4週間が目安です。
- 本剤は散布後に芝が黄変することがありますが、症状は一過性であり次第に回復し、その後の生育に対して影響は認められません。
- 使用する際は、ベントグリーンの状態に合わせて薬量の調整を行ってください。

⚠ 安全上の注意

- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農薬用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後はうがいをするとともに洗眼してください。
- 公園等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。

★使用前にラベルをよく読む。★ラベルの記載以外には使用しない。★小児の手の届くところに置かない。  
●使用量に合わせ薬液を調製し、使い切る。空ボトルは圃場などに放置せず適切に処理すること。

製造販売元  株式会社 理研グリーン  
〒110-8520 東京都台東区東上野4-8-1 TIXTOWER UENO 8F  
TEL.03(6802)8571 FAX.03(6802)8577 <http://www.rikengreen.co.jp>

(株)理研グリーン・パートナーショップ

札幌駐在 TEL.011(595)7401 FAX.011(595)7402 大 阪 支 店 TEL.06(6871)1691 FAX.06(6871)1811  
仙 台 支 店 TEL.022(222)9599 FAX.022(267)6505 福 岡 営 業 所 TEL.092(752)8391 FAX.092(752)8392  
東 京 支 店 TEL.03(6802)8943 FAX.03(6802)8953 グリーン研究所 TEL.0538(58)1282 FAX.0538(58)1714  
静 岡 支 店 TEL.054(283)5555 FAX.054(284)1769 福 田 工 場 TEL.0538(55)5108 FAX.0538(55)5104  
名古屋支店 TEL.052(218)3060 FAX.052(218)3061



グリーンの難問を  
スマート解決!



緑をつくり、育て、守る  
 株式会社 理研グリーン

(包装規格：1ℓ×3本入)

®：(株)理研グリーン登録商標

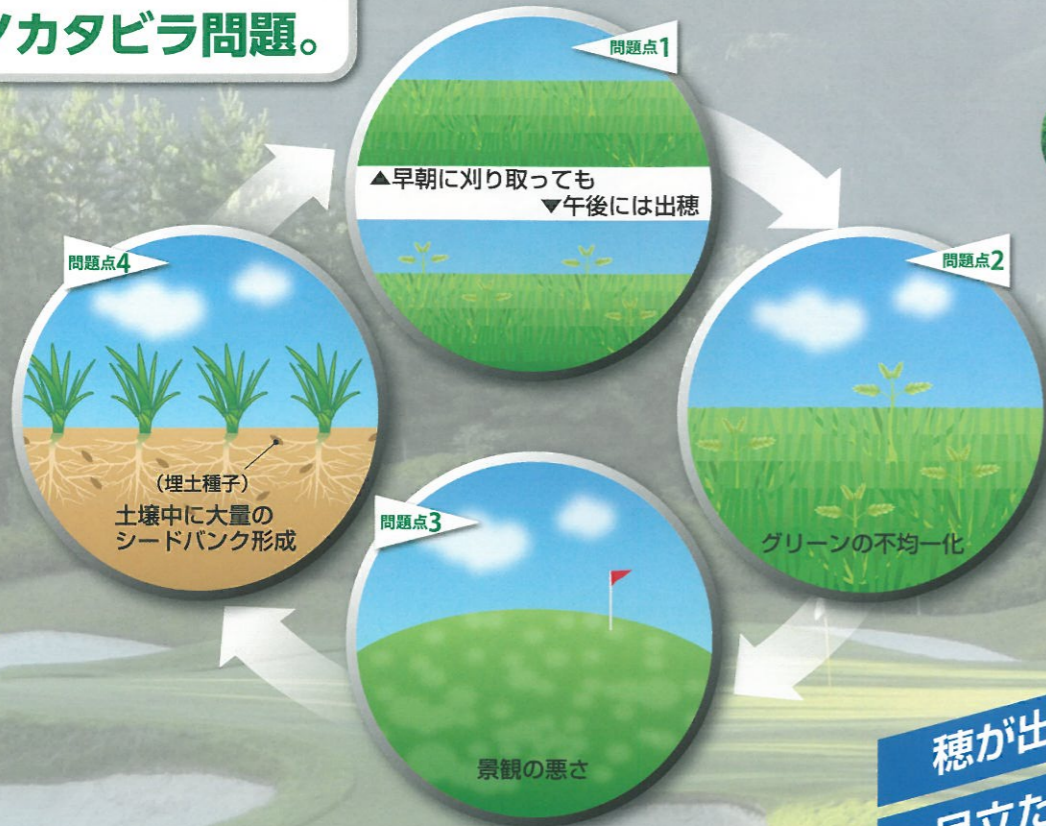




ベントグリーンに発生するスズメノカタビラ  
**出穂抑制**で**決着**をつける。



しぶとく根深い、グリーンのスズメノカタビラ問題。



スズメノカタビラ問題を

**ドロード液剤**  
**出穂抑制**

で解決する!

穂が出ない!

目立たない!

美しさキープ!

葉は芝草として利用!  
 イネ科のメリット

ドロード液剤 製品特長

スズメノカタビラに対して高い出穂抑制効果

連続処理でスズメノカタビラの出穂を長期的に抑制

ベントグラスに対して高い安全性

他の植物成長調節剤との混用または体系処理が可能

有効成分  
**「ベンジルアミノプリン」**  
 の作用性・特長

植物ホルモンの1つであるサイトカイニンは細胞分裂促進、細胞の拡大、花芽の形成促進、老化防止など多くの作用が確認されています。(株)理研グリーンはこの合成サイトカイニン剤(ベンジルアミノプリン)がスズメノカタビラの出穂を抑制することを世界で初めて発見しました(特許申請中)。

スズメノカタビラに対する出穂抑制効果



薬剤処理日: 2010年3月17日、4月11日、5月9日  
 撮影日: 2010年6月10日  
 試験場所: (株)理研グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)

スズメノカタビラに対する出穂抑制効果

試験地	処理日	供試薬量	調査日	出穂抑制効果(%)
千葉県	H22.3.23	0.9mℓ/m <sup>2</sup>	H22.5.31	100
	H22.4.13			
	H22.5.10			
静岡県	H22.3.29	0.9mℓ/m <sup>2</sup>	H22.6.21	96
	H22.4.21			
	H22.5.18			
山口県	H23.3.14	0.9mℓ/m <sup>2</sup>	H23.5.13	92
	H23.4.4			
	H23.4.25			
千葉県	H23.3.11	0.9mℓ/m <sup>2</sup>	H23.5.24	92
	H23.4.8			
	H23.5.6			
静岡県	H23.3.17	0.9mℓ/m <sup>2</sup>	H23.6.3	91
	H23.4.11			
	H23.5.9			

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験より

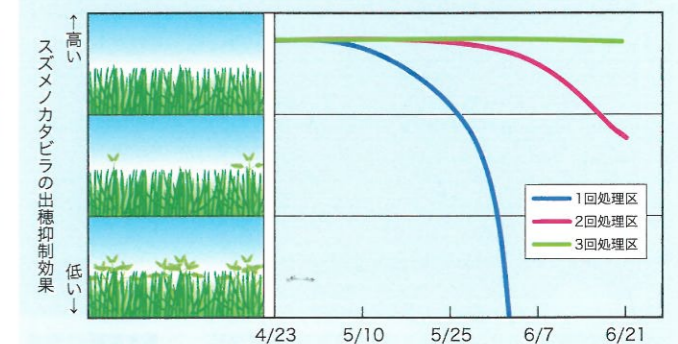
ベントグラスに対する影響

連続処理による安全性

処理回数	薬剤処理日 (H22 実施)	調査日	薬量 (散布水量)		
			0.6mℓ/m <sup>2</sup> (200mℓ/m <sup>2</sup> )	1.2mℓ/m <sup>2</sup> (200mℓ/m <sup>2</sup> )	2.4mℓ/m <sup>2</sup> (800mℓ/m <sup>2</sup> )
1回	3/19	4/1	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)
2回	3/19 4/21	5/4	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)
3回	3/19 4/21 5/18	5/31	— (影響なし)	— (影響なし)	— (影響なし)

試験場所: (株)理研グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)  
 表示方法: — (影響なし)、± (軽微) ~+++ (強)、× (枯死)

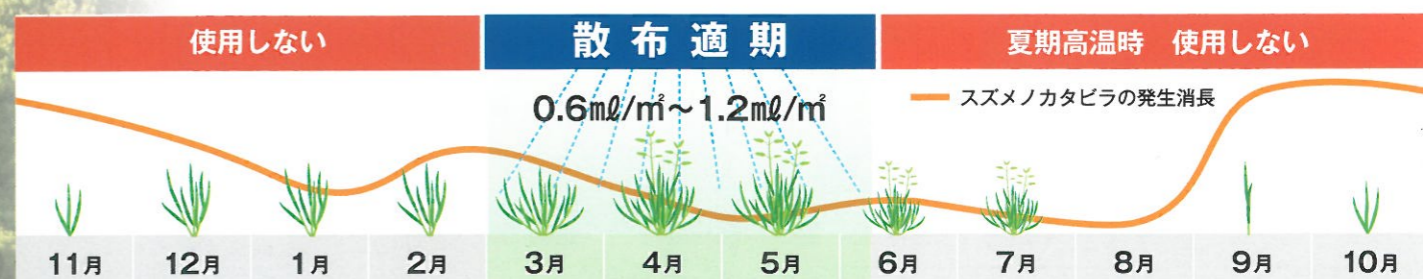
連続処理による出穂抑制効果 (イメージ)



薬剤処理日: 2010年3月17日 (1回目)、4月11日 (2回目)、5月9日 (3回目)  
 散布薬剤: ドロード液剤 0.9mℓ/m<sup>2</sup>  
 試験場所: (株)理研グリーン研究所 (ベントグリーン様管理)

上手な使用方法

散布開始はスズメノカタビラ「出穂前」処理が最も効果的です。



効果が切れる前に連続処理を実施して下さい (3~4週間間隔)。

他の植物成長調節剤 (ショートキープ液剤、ピオロックフロアブルなど) との体系または混用処理により、効果は更に安定します。

更に出穂抑制効果を安定させる秘訣は中面をご覧ください。



# ドラード®液剤とプロキシ®液剤を混用処理することで相乗効果が認められます。

(エテホン21.5%液剤)

閃きが生んだ— 奇跡の黄金比！

アメリカ 特許取得「特許番号 8,293,682 号」 日本・韓国 特許申請中

## 岩手県Aゴルフ場

ドラード液剤+プロキシ液剤

無処理区



薬剤処理日：2012年4月18日、5月8日、6月5日  
撮影日：2012年5月8日  
試験場所：練習グリーン

散布薬剤：1回目（ドラード液剤 0.5mℓ/m<sup>2</sup>+プロキシ液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）  
2回目（ドラード液剤 0.5mℓ/m<sup>2</sup>+プロキシ液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）  
3回目（ドラード液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）

## 三重県Bゴルフ場

ドラード液剤+プロキシ液剤

無処理区



薬剤処理日：2012年3月8日、4月9日、5月9日  
撮影日：2012年4月9日  
試験場所：本グリーン

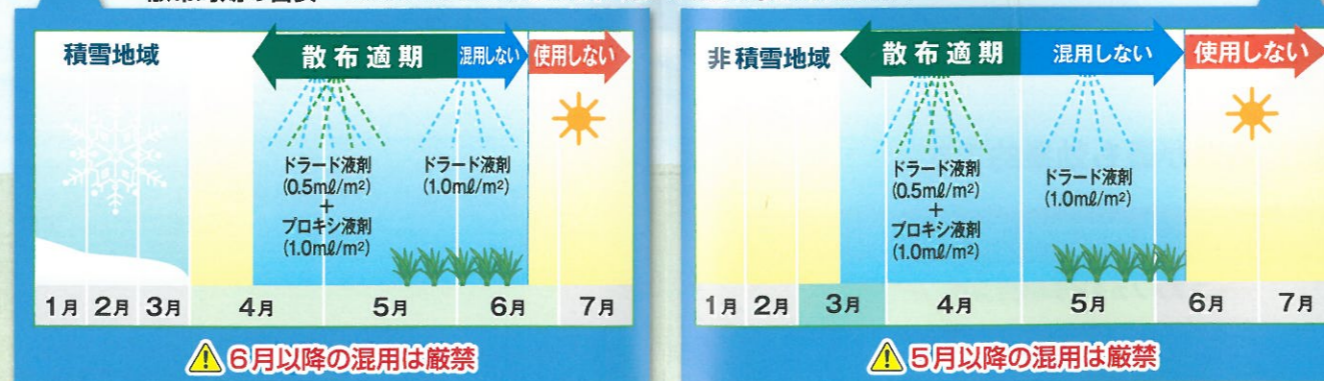
散布薬剤：1回目（ドラード液剤 0.5mℓ/m<sup>2</sup>+プロキシ液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）  
2回目（ドラード液剤 0.5mℓ/m<sup>2</sup>+プロキシ液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）  
3回目（ドラード液剤 1.0mℓ/m<sup>2</sup>）

### 混用処理での効果

(公財)日本植物調節剤研究協会 委託試験より

試験地	処理日	供試薬量	処理回数	調査日	出穂抑制効果(%)
千葉県	H22.3.23	ドラード液剤 0.45mℓ/m <sup>2</sup> + プロキシ液剤 1.0mℓ/m <sup>2</sup>	3回	H22.5.31	100
	H22.4.13				
	H22.5.10				
静岡県	H22.3.29	ドラード液剤 0.45mℓ/m <sup>2</sup> + プロキシ液剤 1.0mℓ/m <sup>2</sup>	3回	H22.6.21	100
	H22.4.21				
	H22.5.18				
千葉県	H23.3.11	ドラード液剤 0.45mℓ/m <sup>2</sup> + プロキシ液剤 1.0mℓ/m <sup>2</sup>	3回	H23.5.24	100
	H23.4.8				
	H23.5.6				
静岡県	H23.3.17	ドラード液剤 0.45mℓ/m <sup>2</sup> + プロキシ液剤 1.0mℓ/m <sup>2</sup>	3回	H23.6.14	100
	H23.4.11				
	H23.5.9				
山口県	H23.3.14	ドラード液剤 0.45mℓ/m <sup>2</sup> + プロキシ液剤 1.0mℓ/m <sup>2</sup>	3回	H23.5.13	96
	H23.4.4				
	H23.4.25				

### 散布時期の目安 スズメノカタビラの発生状況や気候 等で散布時期は異なります。



### 上手な使用方法と注意

- スズメノカタビラ出穂前～出穂初期が有効なので、散布時期を失わないように注意して下さい。
- 効果が切れる前に連続散布を実施して下さい(3～4週間隔)。
- 気温25℃以上の高温時や強い踏圧を受けるなど、芝生が過度なストレスを受けた条件では使用を避けて下さい。(散布

- 後に芝が黄変することがありますが、一過性のものでその後の生育に対して影響はありません。)
- 5月以降または気温 25℃以上の日が続く場合は混用処理を中止し、ドラード液剤の単剤処理に切り替えて下さい。

### 地域別による散布時期



**Point** 初回散布はスズメノカタビラ出穂前～初期が効果的。初回散布以降は3～4週間間隔で連続処理を実施